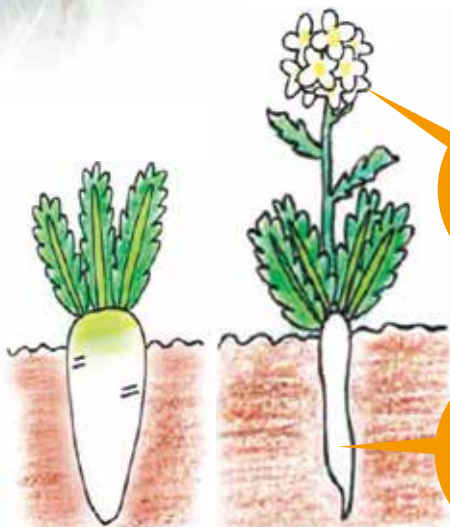




野菜のとう立ちについて



正常なダイコン

とう立ちしたダイコン

とう立ちし、花が咲いています。

根に栄養がいかず、太りません。

キャベツやダイコンなどに花が咲くことを、とう立ち(抽苔^{ちゅうだい})といいます。とう立ちすると、キャベツなどの葉物野菜はうまく丸まらなかったり、ダイコンなどの根菜類では根が太らなくなるなど、品質が悪くなります。収穫前にとう立ちさせないための栽培管理や、品種選定についてみていきましょう。

▼表1 とう立ちする原因と野菜名

原因		野菜名	
① 日長	長日(一日の日長が一定時間より長くなること)	ハウレンソウ、タカナ、シュンギク、ハツカダイコン	
	短日(一日の日長が一定時間より短くなること)	キュウリ、イチゴ、シソ	
② 気温	低温	a: 種子から	ダイコン、カブラ、ハクサイ、ミズナ、エンドウ、ソラマメ
		b: 一定の大きさの苗	タマネギ、キャベツ、カリフラワー、ブロッコリー、セロリ、ネギ、ニンジン、ゴボウ、イチゴ
	高温	レタス、エダマメ、スイートコーン	
③ 栄養(中性植物)		ナス、トマト、トウガラシ、ピーマン	

植物は日長や気温などある一定の条件が揃うと、生長点に花芽ができます。その花芽が発達してとう立ちし、花が咲きます。主なとう立ちの原因は、①日長の影響を受けるもの。②気温の影響を受けるもの。③日長、気温に関係なく、一定の大きさになるととう立ちするもの。以上の3つがあります。

とう立ちする原因

とう立ちを避けるために

地温を上げる
ダイコンなど(表1-a)の野菜は、種から低温に感じますので、種をまく時から低温にあわせないことが重要です。そのため、種まきの時から透明マルチやべた掛け資材(例: パスライト)などを使ったり、畝を高くして水はけを

種まき時期に注意し、極端な早まきを避ける
タマネギなど(表1-b)の野菜は、苗が大きい状態で寒さに当たると、とう立ちします。小さな苗のまま越冬させるため、極端な早まきは避けましょう。栽培暦などを参考に、適切な時期に種まきをしましょう。

晩抽性の品種を選ぶ
とう立ちのしやすさは、品種によって違います。とう立ちにくい品種のことを「晩抽性(ばんちゅうせい)品種」といいます。とう立ちの心配がある時期には、晩抽性品種を選ぶのがおすすめです。



【晩抽性品種の例】
ダイコン「トップランナー」(タキイ種苗)とう立ちが遅く、病気にも強い品種です

とう立ち前に収穫する
春〜夏に種まきするニンジン、ゴボウなど(表1-b)の野菜は畑で越冬する間に花芽ができ、春になるととう立ちします。暖かくなりとう立ちする前に収穫を終えましょう。



▲トンネル栽培のネギの様子
層間の高温で花芽が消失します。

トンネル栽培をして保温する
トンネル栽培とは、畝を保温性のあるビニールなどで覆って作物を栽培する方法です。春まきで栽培するタマネギやダイコンなど(表1-a、b)の野菜は、寒い時期にトンネルをすることでとう立ちを防ぐことができます。これは、昼間の高温が夜間の低温の影響を打ち消すためです。この現象は20℃以上で起きますが、効果的な温度は25〜30℃程度です。

よくして地表面の温度を上げやすくしましょう



ダイコンの種まき後、パスライトで覆って保温している様子